＜　結　果　の　概　要　＞

１　出　生

（１）　出生数は、１０，０２４人で前年より１８９人減少し、過去最低となった。

出生率（人口千対）も過去最低の８．３であった。

昭和４９年以降減少傾向にあり、平成１１年以降は１万１千人を割り込んで推移している。

（２）　出生数を母の年齢（５歳階級）別にみると、２０代前半で９５人、後半で２５４人の減少となっている。

母の年齢階級別出生数

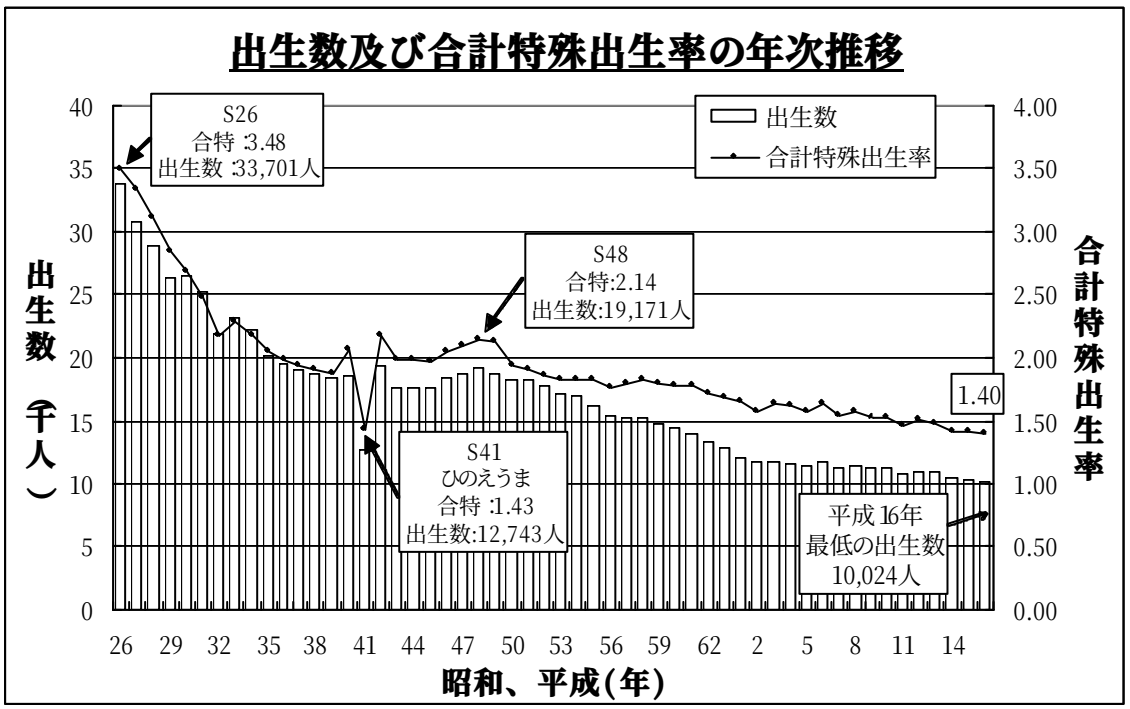
年齢階級（歳）	出生数（人）		
	15年	16年	増減
～14	1	0	△ 1
15～19	165	176	11
20～24	1,474	1,379	△ 95
25～29	3,847	3,593	△ 254
30～34	3,369	3,464	95
35～39	1,204	1,259	55
40～44	150	150	0
45～49	3	3	0
計	10,213	10,024	△ 189

２　合計特殊出生率

合計特殊出生率は、１．４０で前年の１．４１を下回り、過去最低となった。

その年次推移を見ると、昭和５０年以降低下傾向にある。

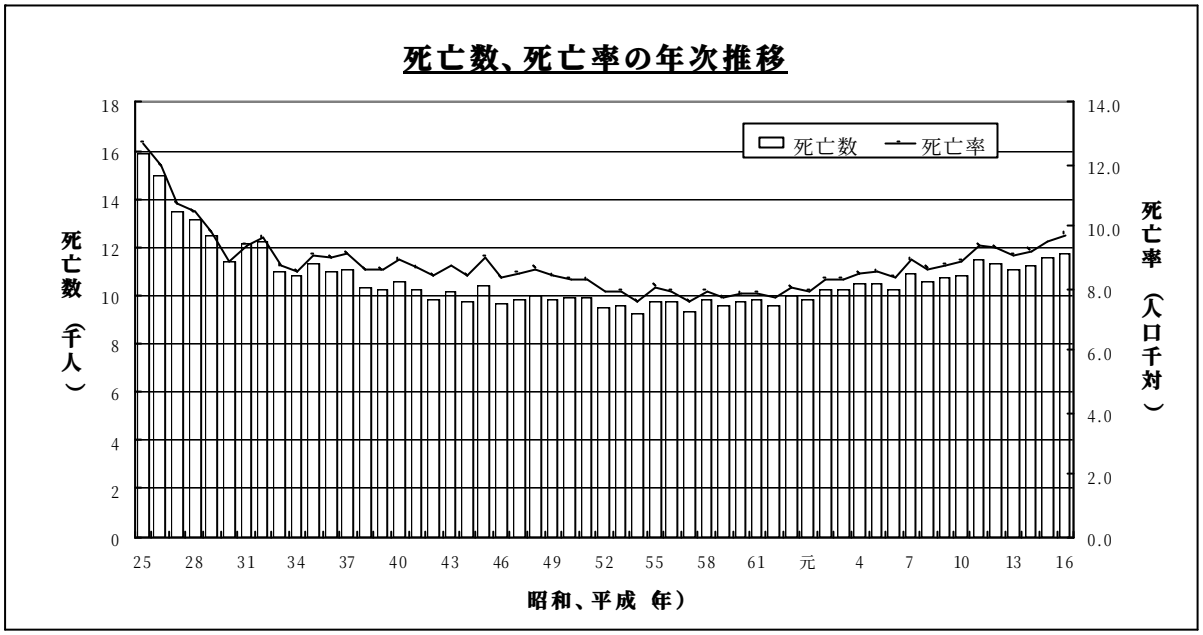
なお、全国の合計特殊出生率は前年と同率の１．２９であった。



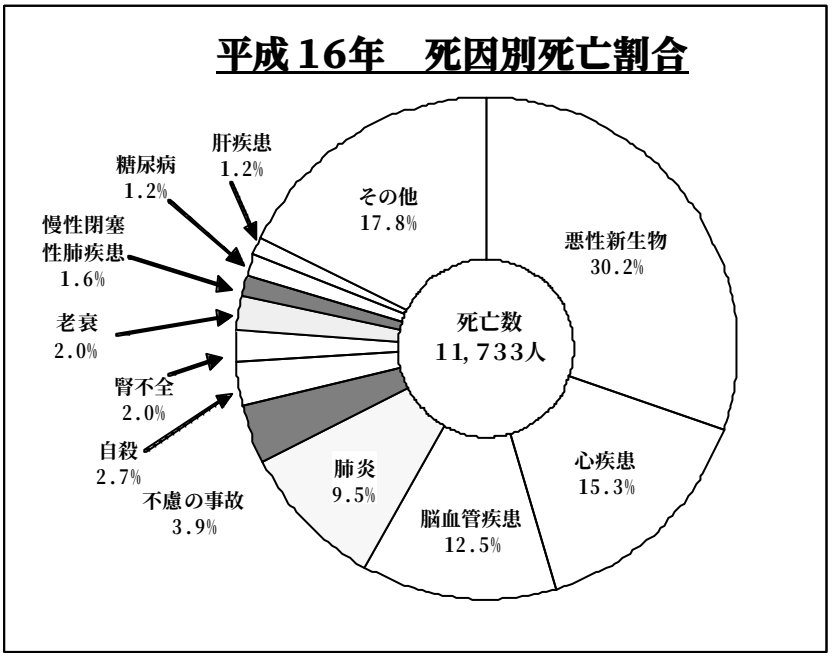
３　死　亡

（１）　死亡数は、１１，７３３人で前年より１７８人増加した。

死亡率（人口千人対）は、９．７で前年を上回り、その年次推移を見ると、昭和５０年代後半以降、上昇傾向にある。



（２）　死因順位についてみると、第１位は悪性新生物（３０．２％）、第２位は心疾患（１５．３％）、第３位は脳血管疾患（１２．５％）で、この３大死因が、死亡数の約６割（５８．０％）を占めている。



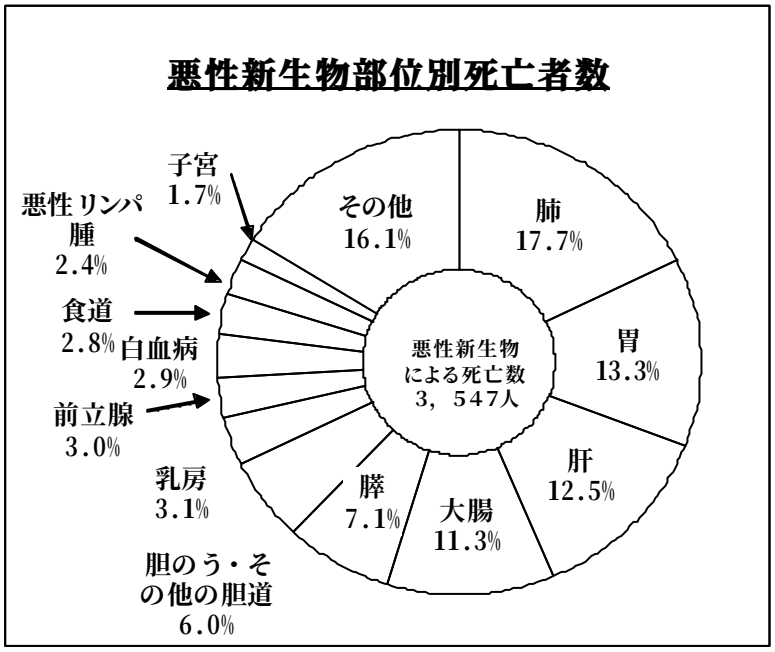
また、死因別死亡数を前年と比較すると、減少したのは心疾患（７１人）、肝疾患（２７人）、慢性閉塞性肺疾患（２１人）などであり、増加したのは、悪性新生物（１８２人）、肺炎（３４人）、腎不全（２９人）などである。

主な死因別死亡数・死亡率

死　因	平成16年				平成15年			対前年比	
	順位	死亡数	死亡率	割　合	順位	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全　死　因		11,733	971.3	100.0	0	11,555	954.3	178	17.3
悪性新生物	1	3,548	293.7	30.2	1	3,366	278.0	182	15.6
心　疾　患	2	1,794	148.5	15.3	2	1,865	154.0	△ 71	△ 5.5
脳血管疾患	3	1,462	121.0	12.5	3	1,473	121.8	△ 11	△ 0.8
肺　　炎	4	1,120	92.7	9.5	4	1,086	89.7	34	2.9
不慮の事故	5	454	37.6	3.9	5	453	37.5	1	0.2
自　　殺	6	321	26.6	2.7	6	309	25.4	12	1.0
腎　不　全	7	240	19.9	2.0	8	211	17.4	29	2.5
老　　衰	8	238	19.7	2.0	7	241	19.9	△ 3	△ 0.2
慢性閉塞性肺疾患	9	191	15.8	1.6	9	212	17.5	△ 21	△ 1.8
糖　尿　病	10	145	12.0	1.2	11	140	11.6	5	0.4
肝　疾　患	11	135	11.2	1.2	10	162	13.4	△ 27	△ 2.2

※死亡率:人口10万対。

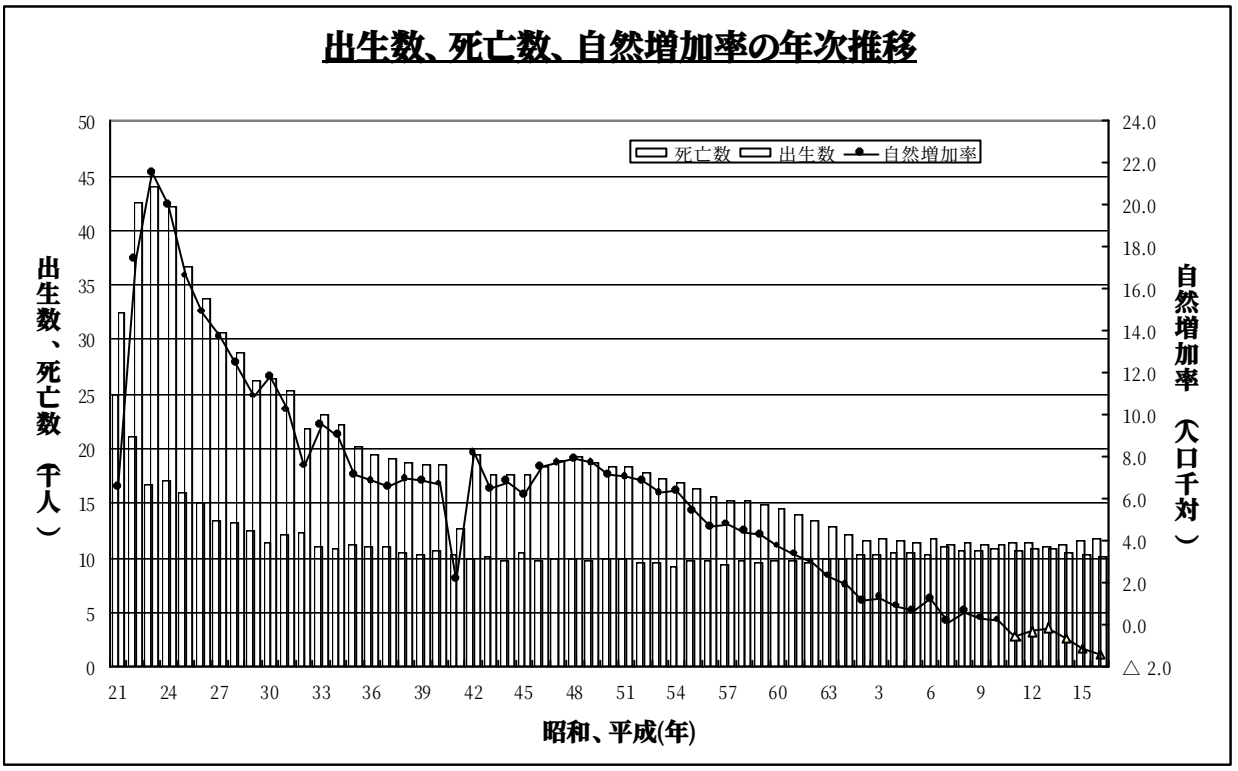
なお、悪性新生物の部位別の死亡順位を見ると、肺がん（１７．７％）を筆頭に、胃がん（１３．３％）、肝がん（１２．５％）、大腸がん（１１．３％）と続き、この４つで悪性新生物の５４．８％を占める。



４　自然増加

自然増加数（出生数－死亡数）はマイナス１，７０９人で平成１１年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態となっている。

自然増加率はマイナス１．４と前年のマイナス１．１より減少幅が拡大した。



５　乳児死亡

生後１年未満の死亡である乳児死亡数は、２９人で前年より２人減少した。

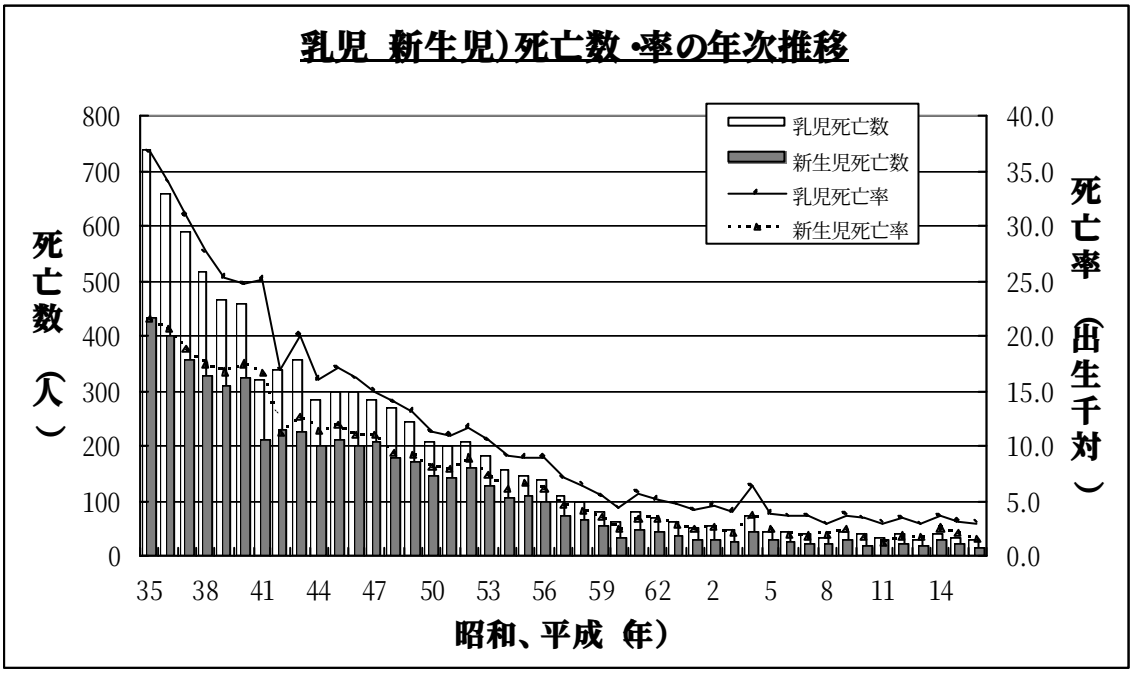
乳児死亡率（出生千対）は、２．９で前年の３．０を下回った。その年次推移をみると、昭和６０年までは急激に低下し、その後は、上昇と下降を繰り返しながら、平成５年以降ほぼ横ばいに推移している。

６　新生児死亡

生後４週未満の死亡である新生児死亡数は、１５人で前年より６人減少した。

新生児死亡率（出生千対）は、１．５で、前年の２．１を下回った。

その年次推移をみると、乳児死亡と同様の傾向で推移している。

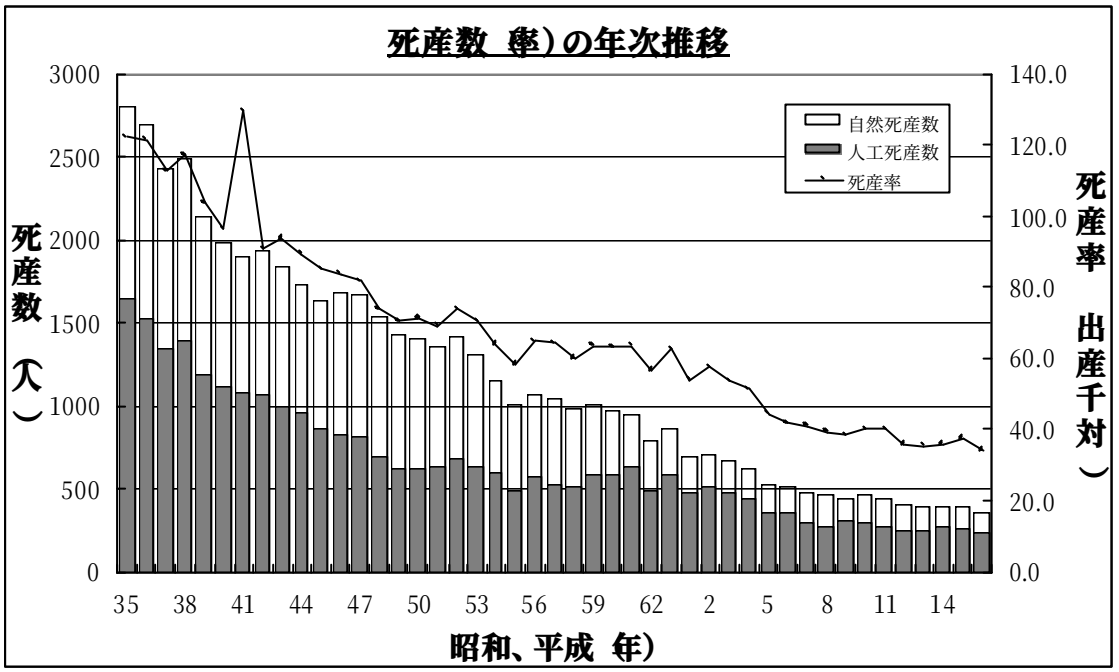


7　死　産

死産数は、３５５胎で前年より４２胎減少した。

その内訳は、自然死産１２１胎、人工死産が２３４胎となっている。

死産率（出産千対）は、３４．２で前年の３７．４を下回り、増減を繰り返しながら、減少傾向にある。



8　周産期死亡

妊娠満２２週以後の死産に、生後１週未満の早期新生児死亡を加えた周産期死亡数は、４６（胎・人）で前年より９（胎・人）減少した。

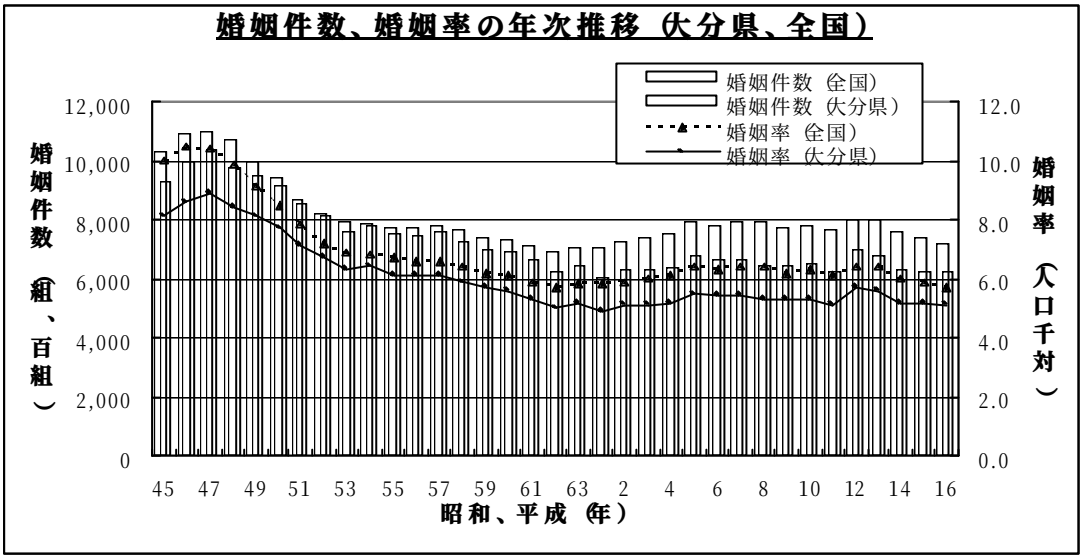
その内訳は、妊娠満２２週以後の死産が３４胎、生後１週未満の早期新生児死亡が１２人となっている。

周産期死亡率（出産千対）は、４．６で前年の５．４を下回った。

９　婚　姻

婚姻件数は、６，１２３組で、前年より１３４組減少した。

婚姻率（人口千対）は、５．１で前年の５．２を下回った。その年次推移をみると、昭和４８年以降低下を続けた後、平成に入ってほぼ横ばいに推移している。



なお、平均初婚年齢は、夫２９．０歳、妻２７．５歳であった。

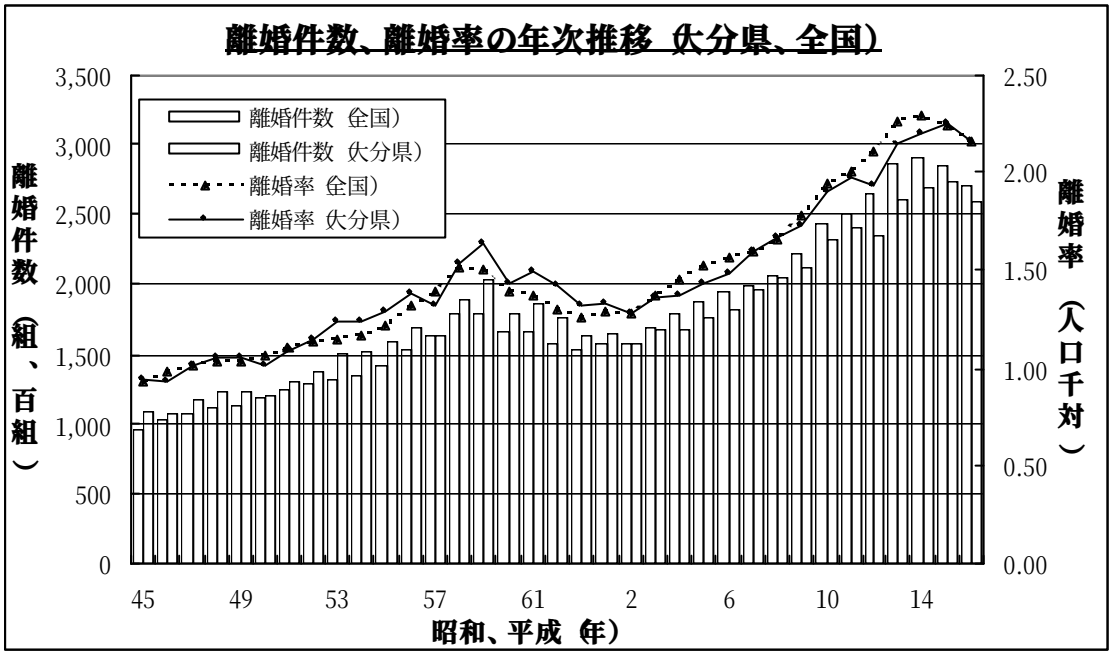
夫については、平成に入ってほぼ横ばいであったが、平成１３年以降上昇傾向にある。妻については、穏やかであるが、ほぼ毎年上昇が続いている。

平均初婚年齢の年次推移

	夫		妻	
	大分県	全　国	大分県	全　国
平成3	28.2	28.4	26.0	25.9
4	28.2	28.4	26.0	26.0
5	28.2	28.4	26.1	26.1
6	28.2	28.5	26.1	26.2
7	28.2	28.5	26.2	26.3
8	28.2	28.5	26.3	26.4
9	28.1	28.5	26.3	26.6
10	28.1	28.6	26.5	26.7
11	28.0	28.7	26.6	26.8
12	28.1	28.8	26.7	27.0
13	28.4	29.0	26.9	27.2
14	28.4	29.1	27.1	27.4
15	28.8	29.4	27.4	27.6
16	**29.0**	**29.6**	**27.5**	**27.8**

１０　離　婚

離婚件数は、２，５９１組で前年より１４０組減少した。

離婚率（人口千対）は、２．１４で前年の２．２６を下回った。

離婚件数・離婚率とも、平成３年以降増加傾向にあったが、平成１２年以来４年ぶりに減少した。